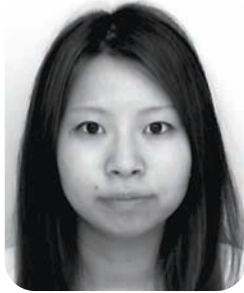


# 台湾での国際学会に参加して

工学府物質工学科専攻M2 畑山 美紀子



この度は明専会大学院奨学金を通して、私たち現役学生の学業活動をご支援くださり、誠にありがとうございます。書面にて大変恐縮ですが、平素より格別の御厚誼を賜っており、まず明専会の諸先輩方へ深く感謝の意を申し上げます。

私は2011年5月7日から3日間、台湾の台北で開催された「The 4th Asian Coating Workshop (ACW 2012)」に参加しました。本ワークショップは、コーティング（塗布）をテーマとした研究について講演・討論が行われるアジア（台湾、韓国、日本など）を中心とした大学・研究機関・企業が参加する国際会議です。私は「Measuring drying path in phase-separating cellulose acetate films」という題目で発表を行いました。今回が国内外を含め初めての

学会参加であり、また発表準備をぎりぎりまで行っていたため、直前まで非常に緊張して食事も喉を通らないほどでした。しかし、いざ本番では練習を上回る一番の出来で堂々と発表できました。また懸念していた質疑応答は、英語での質問も聞き取れ、スムーズに対応することができました。発表後には他大学の教授らからお褒めの言葉をいただくことができ、海外での発表に自信を持つことができました。他大学の教授らからも意見をいただくことができたのはとても大きな成果だと思います。

昨年度のACW2011は私が所属する研究室が主催であったため、運営側として同ワークショップに参加しており、先輩方が行った発表の見学や国際学会の雰囲気など身をもって体験していた経験が、今回の発表の成果につながったと感じています。また昨年知り合いになった台湾の学生たちと今回のACWで再会することができ、去年の話で盛り上がるなどより親交を深めることができました。最終日には主催校による「Technical Tour of Industrial Technology

Research Institute (ITRI)内のLab見学に参加しました。この見学では、台湾が幅広い基礎研究に大きく投資し、力を入れていることがわかりました。フレキシブルディスプレイなど最先端の製品や実験所を見学することができ、日ごろ研究していることがどのように応用、製品化されているかを実際に学べたことは非常にためになりました。

学会開催の期間中、夜には必ず「Reception」や「Welcome dinner」など楽しく交流できる機会が用意されており、参加している学生らと仲良くなることができました。去年知り合った台湾の学生が、「このあと家に来てみんなと一緒に飲まないか？」と親しく誘ってくれるという嬉しい出来事もあり、より交流を深めることができました。また、知り合った学生たちと学会終了日の夜に夜市にくり出しました。日本にはない独特な雰囲気非常に新鮮で、きよろきよろしながら探検したことも良い経験となりました。

満足のいく学会となった反面、以下の課題も痛感しました。国内外の他大学の学生は英語をスムーズに使いこなす積極的に話しかけていくのに対し、私は自ら話しかけることに尻込みしてしまい、自分の語学力の未熟さを痛感すると同時に英語でのコミュニケーションの大切さを改め

て認識しました。つたない英語とジェスチャーを用いコミュニケーションをとりましたが、より深い議論や親交を深めるためには、より高度で専門的な英語が必要であると実感しました。これまで、語学力向上には取り組んできましたが、より力を入れて取り組む必要があると感じ、気を引き締めることができました。国際学会参加により今後の研究、外国語学習の大きなモチベーションを得ることができました。この貴重な経験を生かし今後もさらなる国際的視野の拡大と研究の進展に取り組みたいと思います。

最後に書面をお借りし、常日頃よりご指導を下さっている山村方人先生、また今回の国際会議参加にあたりご支援を下さいました明専会の諸先輩方へ、改めて深く御礼申し上げます。



集合写真（発表会場にて）